

平成 30 年度

# 全国学力・学習状況調査の分析と考察

(平成 30 年 11 月)

松 本 市 教 育 委 員 会  
松本市校長会学力調査検討委員会

# 平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の分析と考察

## 目 次

1	概要	P 1～
2	各教科に関する分析と考察	
	小学校 国語	P 4～
	中学校 国語	P 6～
	小学校 算数	P 8～
	中学校 数学	P 10～
	小学校 理科	P 12～
	中学校 理科	P 14～
3	生活習慣等に関する質問紙調査の分析と考察	
	小学校	P 16～
	中学校	P 18～

- 概要の「教科に関する調査結果の概要」では、平均正答率が9割程度、もしくは9割を上回っている問題や領域を「相当数の児童生徒ができています」という表現を使っています。
- 各教科の「調査結果の概要及び主な特徴」では、学習指導要領の領域・分野の項目別に、特に定着（成果）や課題、改善の傾向が見られることを示しました。  
凡例： (A) …**A問題**から定着（成果）や改善の傾向が見られる事項  
 (B) …**B問題**から課題がある事項  
 (A・B) …**A/B問題共通**で、定着（成果）や改善の傾向が見られる事項  
 または …**A・B問題**の区別がない**理科**における定着や改善または課題がある事項
- 各教科の「課題及び指導改善に向けて」では、特に課題と思われる問題を取り上げ、「課題が見られた問題について」「指導の改善・充実に向けて」の項目で、問題の趣旨や解答状況、誤答につながった要因、授業改善の具体的な方向を示しました。
- \* 表記については、長野県や全国の平均正答率も参考にしながら、平均正答率7～8割程度を基準に「定着している」「身に付いている」、5～6割以下を「課題がある」としました。
- 生活習慣等に関する質問紙調査については、全体的な傾向や主な特徴等をまとめました。全国との比較を示す数値については、その差を「ポイント」という表現を使っています。（例：全国が30%、松本市40%の場合、松本市は全国を「10ポイント上回る」と表現しています。）また、数字は小数点第一位を四捨五入しています。
- 本調査は、国語、算数・数学、理科の3教科のみであるため、必ずしも学習指導要領全体を網羅しているものではありません。よって、本調査は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部であることにご留意ください。